

日本防災士会（本部）総会に参加して

奈良県防災士会理事長 植村信吉

平成 29 年 6 月 24 日（土）、東京：星陵会館に特定非営利活動法人日本防災士会（以下、本部という）総会が開催されました。今年度の総会は役員改選の年で、長年理事長として私たちの先頭にたってこられた浦野前理事長が会長職に、新たに前副理事長の松尾好将さん（埼玉県）が新理事長に選任され、女性理事 2 名（横山さん、益子さん）を含めて 30 名での新体制が発足しました。総会では、予定されていた議案全てが賛成多数で承認されました。参加した会員からの活発な意見を聞きながら、自分たちも頑張らなければと決意を新たにしているところであります。

総会後には、3 名の防災士の方が活動報告を行いました。それぞれ味わいのある報告でしたが、誌面の都合上、岸澄夫防災士（宮城県東松島市）の話を抜粋して報告します。

【東日本大震災とこれからの防災：岸澄夫防災士（宮城県東松島市）】

岸防災士は、3. 11 の際は開北小学校の校長という立場で陣頭指揮をされており、その体験を元に様々な提案・報告をされています。報告書の中から一部抜粋すると、「マニュアル、知識、経験は諸刃の刃」＝生かすも殺すも扱い方によって決まる！

また、災害発生時（発生が予測される時）は、知識やマニュアルで想定されている災害と同じ災害はない。想定や体験、知識にとらわれず目の前の災害に臨機応変に対応することが重要。当時の話として、子供たちを避難させる際、防寒具を着せて避難させるように指示した。（防寒対策）また、災害時に「校舎は倒壊の恐れがあるから入るな！」と消防を語る者からデマ情報が入った。外は寒いし津波が襲って来る危険のある中で判断を躊躇せざるをえなかった事態に陥ったこと。「宮古に 6M の津波」というラジオ放送以後、一切情報が入ってこなかったことから、“情報が入ってこない！”のも情報の一つと考える＝大変な被害状況である等。

県内各地で研修や訓練指導や支援として出向く機会が増えて来ていますが、岸澄夫防災士の話の肝に命じたいものです。